

総合診療医学

責任者：総合診療医学講座 下沖 収 教授

学習方針（実習概要等）：

医学の進歩により医療の高度化、臓器別の専門化医療がすすむなか、加速する高齢化により複数の部位や多岐の症状を抱える患者が増加している。さまざまなストレスを抱える現代社会において精神的要素や家族・社会背景により症状や病状は大きな影響を受けている。その様な現代社会において、臓器別、専門科別では対応できない病状や疾患、症候や病態について様々な視点から論理的に考え、診断に至る事が必要である。

また、病悩期間が長期の患者、多くの医療機関を受診している患者はこの様な複雑な背景を有する病態に対応して、適切な診断、処置を行う事、患者や家族の言動に耳を傾け、同職種や他の医療従事者と協調して患者の生命予後の改善に努める事が求められる。

これらは医療の原点であり、患者個人とその背景を総合的に診る、臓器別にとられない医療、全人的医療、そして断らない医療が必要であり、そのためには疾患の病態生理のみならず、情報から得られる心理的社会的背景を理解することが大切であり、それらを総合して診断、対応、他の専門科と協力して診断および治療していくことを学ぶ。

さらに、疾病予防や社会復帰、在宅復帰のために必要な条件や社会資源について、患者中心の医療が実践できるように学ぶ。

教育成果（アウトカム）：

患者を生物心理社会（BPS）モデルとして捉え、症候から診断、治療、さらには社会復帰・在宅復帰までをトレースして考察することで、病態の理解にとどまらず、社会や家庭の中の人間を診る全人的視点態度を養う。BPSモデルに基づく診療態度を取得する。臓器別、専門科別の診断、治療のみでなく総合的全身的視点で病態の理解と治療方針の立案、治療や対応ができるようになる。

（ディプロマ・ポリシー：1, 2. 3. 4. 5, 6. 7, 8）

到達目標（SBOs）：

外来実習

1. スチューデント・ドクターとして真摯な態度で患者および関係者に接して病歴や症状を問診することができ、診断上必要な事項（主訴・現症状や傷病の経過・合併症、既往症、現存病、家族歴、アレルギーなど）を聴取し、患者に関する医療情報を整理して診療録に記載することができる。
2. 基本的身体診察手技を習得し、病歴や症状から必要な身体診察手技を実施し得られた所見を正しく判断することができる。
3. 病歴、症状、身体診察所見から得られた情報から鑑別診断を挙げることができ、必要な検査（検体検査、画像検査、その他の検査）を判断することができる。

4. 検体所見を正しく判断することができ、鑑別診断の絞り込みと病状の把握、他の診療科コンサルトの必要性について検討することができる。
5. 診断や症状に基づいて標準的な治療方法を挙げることができる。
6. 患者や患者背景を考慮して、他職種との連携や必要な医療サービスを挙げることができる。
7. 医療安全の考え方を理解し、患者誤認防止、情報漏洩防止などの基本的な対策を確実に実施できる。
8. 感染予防のための手指消毒と適切な防護具を正しく着脱することができる。
9. スチューデント・ドクターとして、患者および医療スタッフと良好なコミュニケーションをとることができる。

病棟実習：

1. スチューデント・ドクターとして真摯な態度で患者および関係者に接して病歴や症状を問診することができ、診断上必要な事項（主訴・現症状や傷病の経過・合併症、既往症、現存病、家族歴、アレルギーなど）を聴取し、患者に関する医療情報を整理して診療録に記載することができる。
2. 基本的身体診察手技を習得し、病歴や症状から必要な身体診察手技を実施し得られた所見を正しく判断することができる。
3. 病歴、症状、身体診察所見から得られた情報から鑑別診断を挙げることができ、必要な検査（検体検査、画像検査、その他の検査）を判断することができる。
4. 検体所見を正しく判断することができ、鑑別診断の絞り込みと病状の把握、他の診療科コンサルトの必要性について検討することができる。
5. 診断や症状に基づいて標準的な治療方法を挙げることができる。
6. 文献検索や医療情報を検索することによって、科学的根拠に基づいた治療方針を計画できる。
7. 収集した情報と鑑別診断、問題点を抽出することによって、回診や検討会で簡潔にわかりやすく症例提示を行うことができる。
8. 受け持ち患者を毎日回診することによって、指導医に患者の状態や問題点を説明し、診療録に記載できる。
9. 患者・家族のニーズを身体・心理・社会的側面から把握することによって、患者・家族と良好な人間関係を築くことができる。
10. 医療チームの一員としての役割を自覚し、医療スタッフに敬意を示すことによって、医療スタッフと良好な関係を築くことができる。
11. 医師、患者・家族がともに納得できる医療を行うために、インフォームド・コンセントのための文書作成方法を理解し、スチューデント・ドクターとして説明に参加できる。
12. 退院後の問題点や必要な医療サービスなどを、医療スタッフとの協議に参加して意見を述べまとめることができる。
13. 医療を行う際の安全確認の考え方を理解することによって、指導医の下で医行為基準に従って必要な処置を実施もしくは介助ができる。
14. 感染予防のための手指消毒と適切な防護具を正しく着脱することができる。

特に留意すべき注意事項：

内丸メディカルセンターまでの交通手段と実習初日の集合時刻について実習前週の金曜日（祝日休日の場合はその前の平日）正午までに総合診療科医局に確認すること。

担当教員によるオリエンテーションがあるので、実習初日の指定の時間に内丸メディカルセンター3階医局に集合する（2026年4月以降は教務課に確認のこと）。

ベーシックでは、外来中心の実習となるので、基本的診察手技と所見の評価は十分に学習しておくこと。

予約患者を待たせることがないように、遅刻や無断欠席をしないこと。やむを得ず遅れる場合はすみやかに医局に連絡をすること。

スチューデント・ドクターとしてふさわしい身だしなみと清潔な白衣の着用を心がけること。

問診や説明、指導者との質疑応答の会話では患者や関係者に不安を与えぬよう表現や内容に十分に留意すること。

症例振り返りは翌日朝 8:30～行うが、当日（15:00～）に行う場合もあるので、その場合には必ず参加すること。

診断と検査の基本

- 医療面接における基本的コミュニケーション技法を用いることができる。
- 病歴（主訴、現病歴、既往歴、家族歴、社会歴、システムレビュー）を聞き取り、情報を整理しカルテ記載ができる。
- 理学的検査（視診、聴診、打診、触診、神経学検査、心電図）を実施し、評価できる。
- 検体検査（血液、尿、糞便、髄液）の適応を判断し、得られた情報を分析できる。
- 画像診断（X線、CT、MRI、超音波検査、内視鏡検査、消化管造影検査など）の適応を判断し、得られた情報を分析できる。

事前学修内容および事前学修時間：

シラバスに記載されている前記の内容を確認し、医療面接・診察など基本的臨床技能実習で修得した手技について再確認（事前学修）をすること。また、実習前にeポートフォリオ（WebClass）「日々の振り返り 今日の目標」にて、事前学修内容を踏まえた自己到達目標を設定し実習へ臨むこと。各実習に対する事前学修の時間は最低60分を要する。本内容は全実習に対して該当するものとする。なお、適宜eポートフォリオ（WebClass）を通し個人に対する実習のフィードバックを行う。実習では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。

第4・5学年臨床実習スケジュール [総合診療医学]

指導医師名：①下沖収教授 ②大間々真一准教授 ③高橋智弘講師 ④米田真也講師 ⑤山田哲也助教 ⑥高橋幹夫助手 ⑦遠藤秀彦非常勤講師

曜	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
月 [場 所] (指導医)	オリエンテーション [総合診療医局]①②③④⑤	外来診察[外来診察室]①②③④⑤	プレテスト・解説・レクチャー [総合診療医局]①②③④⑤⑥ 外来診察[外来診察室]①②③④⑤	症例カンファレンス [総合診療医局]①②③④⑤⑥
火 [場 所] (指導医)	外来診察[外来診察室]①②③④⑤ (病棟回診[6階病棟]①②③④⑤)	外来診察[外来診察室]①②③④⑤	プレテスト・解説・レクチャー [総合診療医局]①②③④⑤⑥ 外来診察[外来診察室]①②③④⑤	症例カンファレンス [総合診療医局]①②③④⑤⑥
水 [場 所] (指導医)	外来診察[外来診察室]①②③④⑤ (病棟回診[6階病棟]①②③④⑤)	外来診察[外来診察室]①②③④⑤	プレテスト・解説・レクチャー [総合診療医局]①②③④⑤⑥ 外来診察[外来診察室]①②③④⑤	救急センター合同症例検討会・ 症例カンファレンス [総合診療医局]①②③④⑤⑥
木 [場 所] (指導医)	外来診察[外来診察室]①②③④⑤ (病棟回診[6階病棟]①②③④⑤)	外来診察[外来診察室]①②③④⑤	プレテスト・解説・レクチャー [総合診療医局]①②③④⑤⑥ 外来診察[外来診察室]①②③④⑤	抄読会・症例カンファレンス 経験症例プレゼンテーション [総合診療医局]①②③④⑤⑥
金 [場 所] (指導医)	外来診察[外来診察室]①②③④⑤ (病棟回診[6階病棟]①②③④⑤)	外来診察[外来診察室]①②③④⑤	プレテスト・解説・レクチャー [総合診療医局]①②③④⑤⑥⑦	経験症例プレゼンテーション 症例カンファレンス [総合診療医局]①②③④⑤⑥⑦

授業に使用する機械・器具と使用目的

使用区分	使用機器・器具等の名称	台数	使用目的
診断用機械	超音波診断装置	1台	超音波による画像診断
診断用機械	眼底鏡・耳鏡セット	1台	眼底および鼓膜所見の診察
診断用機器	聴診器		心音、呼吸音、血管雑音の聴取
診断用機器	ペンライト		口腔内、鼻腔内、瞳孔の診察
診断用機器	打鍵器他、神経所見診断セット	1台	神経学的所見の診察
視聴覚用機械	大型モニター	1台	検討会による教育
視聴覚用機械	パーソナルコンピューター	1台	〃
視聴覚用機械	スライドプロジェクター	1台	〃
視聴覚用機械	カラーコピー複合機	1台	講義・実習レジュメ作成

教科書・参考書等：

- ・朝倉書店 内科学 第11版 矢崎義雄 総編集 朝倉書店
- ・医学書院 内科診断学 第4版 福井次矢 奈良信雄 松村正巳

成績評価方法：

臨床実習評価は以下の項目について100点満点で評価する。

1. 知識：15点
2. 態度：30点
3. 技能試験：15点
4. ポートフォリオ：20点
5. 指導医評価：20点

臨床実習スケジュールは変更することもあるため適宜確認し、柔軟に対応できるよう指導医と密に連絡を取ること。